

## ICT街づくり推進会議（第10回）議事要旨

### 1. 日時

平成27年7月16日（木）15:00～16:30

### 2. 場所

総務省8階 第1特別会議室

### 3. 出席者

#### （1）構成員

岡座長、石原構成員、岩沙構成員、清原構成員、須藤構成員、徳田構成員、村上構成員

#### （2）政府CIO

遠藤政府CIO

#### （3）オブザーバ

内閣官房情報通信技術（IT）総合戦略室、厚生労働省医政局研究開発振興課医療技術情報推進室、農林水産省大臣官房評価改善課情報室、経済産業省商務情報政策局情報経済課情報プロジェクト室、国土交通省都市局都市政策課

#### （4）総務省

西銘総務副大臣、桜井総務審議官、阪本総務審議官、鈴木情報通信国際戦略局長、福岡官房長、今林大臣官房総括審議官、池永大臣官房審議官、森情報通信国際戦略局次長、小笠原情報通信政策課長、橋本行政情報システム企画課長、上仮屋住民制度課企画官

### 4. 議事

#### （1）各種戦略等について

#### （2）共通ID利活用WGにおける検討状況について

#### （3）ICT街づくりの普及展開に向けた取組、今後の進め方等について

#### （4）意見交換

## 5. 議事概要

会議の冒頭、西銘総務副大臣より挨拶があった。主な内容は以下のとおり。

### 【西銘総務副大臣】

- 6月末に、いわゆる骨太の方針や日本再興戦略、世界最先端IT国家創造宣言など、主要な政府方針が閣議決定されたが、これらのいずれにおいても、ICTの利活用は重要項目の1つとして位置付けられている。
- 総務省では、約3年前から岡座長のリーダーシップのもと、全国27カ所においてICT街づくりの実証プロジェクトを実施してきた。現在は、これまでの成果の普及展開が具体的に進み始めており、今後はこの動きを一層加速していくことが重要。
- 副大臣に就任して以降、地域の取組から研究開発に至るまで、できる限り現場に出かけていき、直接関係者から話を伺った。また、奈良県葛城市、鳥取県米子市、群馬県前橋市で開催されたICT街づくりサミットにも全て参加したが、首長のリーダーシップの下、クラウドや個人番号カードを活用し、住民の利便性向上や地域活性化に真剣に取り組む姿に大変感銘を受けた。また、周辺の自治体を巻き込み、広域的に普及展開が進んでいることを実感した。
- 今後、各自治体が地方版総合戦略を策定し、その内容に応じて交付金が配分されると聞いており、また、来年1月からいよいよ個人番号カードが配付される。これまでの成果を地方版総合戦略に積極的に盛り込んで頂いたり、個人番号カードの利活用につなげて頂いたり、ICT街づくりの取組が大きく広がるものと期待している。より多くの普及展開の事例を作るべく、総務省も引き続き全力で取り組む。岡座長をはじめ構成員の皆様のご知見、ご経験を生かした活発なご議論をお願いしたい。

#### (1) 各種戦略等について

事務局より資料10-1について説明が行われた。

#### (2) 共通ID活用WGにおける検討状況について

須藤構成員より資料10-2について説明が行われた。

#### (3) ICT街づくりの普及展開に向けた取組、今後の進め方等について

事務局より資料10-3について説明が行われた。

#### (4) 意見交換

出席者の主な発言は以下のとおり。

#### 【石原構成員】

- ICT街づくりが実証実験の段階からいよいよ横展開のフェーズに入ってきたというのを改めて感じた。
- 例えば、塩尻市の鳥獣被害対策については、導入の手引きまで出来上がっており、非常に具体性を感じる。今後、他分野の手引きを作成する上でもお手本になるのではないかと。また、久米島の地産地消システムについては、捨てていた野菜が売れるようになり、それによって農家にやりがい生まれる、という好循環が生まれている貴重な例だと思う。便利さだけではすぐに慣れてしまい、せっかくの効果も時間が経つにつれて有難みが薄れてしまうが、便利さを超える付加価値を生む工夫が必要。
- 個人番号カードがいよいよ来年1月から交付される。前橋の成果を共通プラットフォームとして活用するなど、個人番号カード利活用の取組を全国に広げてほしい。

#### 【岩沙構成員】

- これまでの成果の横展開の担い手となる組織体や事業者が着実に立ち上がってきていることは特筆すべき成果。こういう基盤が出来てこそ、これからの進展が期待できる。ICT街づくりの取組が、実証から実装に向けた大きな飛躍の段階に来たことを改めて実感している。横展開を促進するための推進体制をより強化していくことも必要ではないか。
- 地方創生の実現に向けては、地域が自立して、自主的な気概を持って取り組んでいくことが重要。
- 参加者が増えれば増えるほど、成果がより具体的に見えるようになり、更に新しい参加者が手を挙げてくるという好循環が生まれてくると思う。意欲ある参加者を増やすことが普及展開の早道だと思う。
- マイナンバー制度もいよいよ始まるが、うまく利活用することができれば、非常に強力なツール、かつ、インフラになると思う。

#### 【清原構成員】

- 骨太の方針や成長戦略など、国の戦略の中に、ICT街づくりや個人番号カード利活用に関する記載が盛り込まれたことを大変嬉しく思う。
- 個人番号カードについては、とにかく住民の皆さんに市役所まで取りに来て頂いて、使って頂くことが重要。そのためにも今般の国の戦略に記載されているように、個人番号カードで具体的にこれだけ便利になる、ということを示していくことが必要。

○これまでの取組を横展開していく上では、地域が自立的かつ持続可能な形で取組を進めるとともに、民学産公の協働、広域連携が重要。例えば、前橋市の事例であれば、地元三師会との連携・協力であり、塩尻市の事例であれば、地元農家や猟友会との連携・協力であるということが言える。

#### 【須藤構成員】

○個人番号カードの配付開始に向けて、中心的な役割を担う総務省においては、一体感をもって体制を整備して頂き、万全の構えで望む必要がある。

○これまでの成果の普及展開に向けて補助金を交付した地域については、厳しい評価を通った地域なので、より良い成果が出ることを期待している。他方で、例えば、農業や林業分野で、農林水産省や総務省の補助金による支援を受けていないものの、地元で非常に力が入っているところもあるので、こういった取組にも注目してけると良いと思う。

#### 【徳田構成員】

○今回、各地域におけるプロジェクトの推進体制についてまとめて頂いたが、運用組織の重要性を改めて認識した。各地域の事情によって推進体制の在り方も様々だと思うので、パターン別に整理して頂けると非常に役立つデータになるのではないかと。

○成功事例の横展開にあたって、新たなサービスを追加しようとした時に、どれだけ節約された形でサービスを実現できるプラットフォームとなっているかが重要。サイロ型にならずに、モジュール化され、連携されたコネクテッドサービスとしてプラットフォームの利活用が進むよう今一度確認すべき時期にきていると思う。

○個人番号カードの活用に関しては、特に若い世代に対しては、スマートフォンをうまく活用していくことを考える必要がある。スマートフォンは一般の人々が自ら購入し、日頃から使っているメディアであり、若い世代をより巻き込みやすくなると思う。

#### 【村上構成員】

○ICT街づくりの取組が国の戦略に大きく貢献していることを嬉しく思う。本会議における取組は、実証から実証へ、核となるベストプラクティスを徹底的に作り上げる、現場主義を徹底する、といった基本的なスタンスを保ちながら進めており、そういったことがこれまでの成果に繋がっていると思う。

○今後は、自治体や、最終的な利用者である住民の皆さんにしっかりとベストプラク

ティスが浸透していくことが重要。その際、塩尻や真庭、久米島、前橋といった具体的な固有名詞を前に出して普及展開を図っていくことも効果的だと思う。

○先日シリコンバレーでICTを活用してサービスイノベーションに成功している企業を訪問したが、サービスを実現する際のインターフェースに非常に気を遣っていることを実感した。必ずソフトウェアオンリーやネットワークオンリーでサービスが完結できるように工夫されており、ICT街づくりのプロジェクトについても、思い切った利活用の仕方や方式を導入することによって、さらに広がっていく部分もあるのではないか。

#### 【遠藤政府CIO】

○これまでのベストプラクティスについて、こういう良い結果が出た、と単に紹介するだけではなく、まずは塩尻の事例について、導入の手引きという形でまとめたことは良いことだと思う。具体的に、どういったやり方で、どんな工夫をしたのか、という点が分かり、非常に役に立つのではないかなと思う。

○今回、国の各種戦略が取りまとまったが、これからの実行段階でしっかりと関係省庁が連携していくことが重要。例えば、官庁の入退館のICカードも各省庁が単独で調達するよりも、各省が連携して調達した方が、費用が節約できる。また、自治体クラウドについても、取組は随分進んできているが、ある程度、数をまとめていくことができれば、割り勘効果が相当効いてくると思う。そこで節約できた費用を自立的・持続的な取組の財源に充てていくこともできると思う。

#### 【岡座長】

○全国各地で地方創生に向けた動きが活発になっている中、ICT街づくりの成功モデルを横展開していく上で、今がまさに絶好のタイミングである。これから各地域で策定されていく地方版の総合戦略にICT街づくりの成功モデルを活用して頂けるよう、しっかりと周知・宣伝していきたい。

○また、マイナンバー制度の導入に向けて、セキュリティをしっかりと確保しつつ、今一度、利便性についてしっかりと周知していくことが重要。

○街づくりにおいて、首長のリーダーシップや住民の参加が重要であることは言うまでもなく、この点は、今後の横展開においても変わらず重要な点である。

以 上